

## 平成 23 年度 SPARC Japan 事業の実施状況（報告）

## 全般的な方向性

第 3 期の大方針である「我が国の特色に見合ったオープンアクセスを実現する」という目標を達成するため、第 3 期 2 年目の平成 23 年度は、大学図書館、研究者に軸足を置いたアドボカシー活動（①ニュースレターの発行，②セミナーの開催），③国際連携活動，④学会誌合同プロモーションを以下のとおり実施した。

## ①SPARC Japan ニュースレター

- ・ 平成 23 年度に 4 回発行した（p.3 参照）
  - ・ 第 9 号：第 1 回運営委員会において配付
  - ・ 第 10 号～12 号：今回参考資料として配付

## ②SPARC Japan セミナー

- ・ 平成 23 年度は 6 回開催した（資料 No.2-2 参照）
  - ・ 開催回数，参加者とも前年度比で大幅減少
  - ・ 大学との共催により，地域での開催が実現した

## ③国際連携活動

- ・ SCOAP<sup>3</sup>について
  - ・ 2013 年 1 月新体制によるジャーナル刊行に向け、入札の第 2 段階に入っている
  - ※国内での役割分担について整理及び具体化が必要
- ・ arXiv.org について
  - ・ 2012 年 2 月のフランクフルトにおける委員会に安達部長が出席。日本国内の取りまとめを NII が担ってほしいという要請を受け、国内連絡会の立ち上げに向けて各関係機関に打診中
- ・ SPARC OA Meeting について
  - ・ NII より、安達部長，塩崎係長が参加。今後は大学からも CSI 委託事業の期間を問わず、必要に応じて参加できるよう要調整

## ④学会誌合同プロモーション

- ・ 化学系学会誌の合同プロモーションは、平成 19 年度に 6 学会 7 ジャーナルで始まり、5 年目の本年度は 9 学会 11 ジャーナル<sup>※</sup>となった。  
平成 23 年度の出展先は以下のとおり。

- ・ 第 43 回 IUPAC [プエルトリコ・サンファン, 2011 年 8 月]  
(学協会及び別途経費による実施)
- ・ 第 242 回 ACS 秋季大会[米国・デンバー, 2011 年 8 月]  
(NII 経費による実施)  
出展報告  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2011/20110828.html>
- ・ 第 14 回アジア化学会議[タイ・バンコク, 2011 年 9 月]  
(学協会及び NII 経費による実施)  
出展報告  
<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2011/20110904.html>
- ・ JUSTICE 版元説明会 (東京／大阪, 2011 年 9 月) に SPARC Japan パートナー誌のブース出展
  - ・ 提案書を出したのは, 化学工学会, UniBio Press, 日本物理学会
  - ・ プレゼンは, 前年度と異なる提案をした出版者が対象であったため無し
- ・ 今後の活動に向けて :
  - ・ 合同パンフレットの改訂 (NII 経費による実施)
  - ・ Web サイトの改訂 (学協会経費による実施)<http://www.society.sakura.ne.jp/chem/>

#### ※9 学会 11 ジャーナル

- ・ SPARC Japan パートナー誌
  - Analytical Sciences (日本分析化学会)
  - Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry (日本農芸化学会)
  - Journal of Bioscience and Bioengineering (日本生物工学会)
  - Journal of Chemical Engineering of Japan (化学工学会)
  - Materials Transactions (日本金属学会)
  - Polymer Journal (高分子学会)
- ・ その他
  - Advanced Powder Technology (粉体工学会)
  - Bulletin of the Chemical Society of Japan (日本化学会)
  - Chemistry Letters (日本化学会)
  - The Chemical Record (日本化学会)
  - Trends in Glycoscience and Glycotechnology (FCCA : 糖質科学／糖質工学)

平成 23 年度発行 SPARC Japan News Letter No.9~12 目次一覧

	タイトル	著者名 (敬称略)	
第 9 号 2011 年 6 月発行	記事	21 世紀における日本の学術誌出版(報告書) 日本のジャーナルを愛するすべての人へ(3) - UniBio Press 活動報告	動物学会 永井 裕子
	トピックス	日本の学術誌(第 8 回) 日本化学会	化学会 平尾 俊一
	活動状況 1	「第 8 回 SPARC Japan セミナー2010」に参加してドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」参加報告	NIMS 谷藤 幹子
	活動状況 2	「ドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」参加報告	九州大学 星子 奈美
	お知らせ	大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)の誕生	JUSTICE 守屋 文葉
第 10 号 2011 年 10 月発行	記事	学会とビジネスモデル、そして学術出版・講読アクセスにおけるシンメトリーについて	電気通信大学 植田 憲一
	記事	21 世紀における日本の学術誌出版(報告書) 日本のジャーナルを愛するすべての人へ (4) -日本で使えるプラットフォーム、電子投稿システム	動物学会 永井 裕子
	トピックス 1	日本の学術誌(第 9 回) 上智大学 モニュメンタ・ニポニカ	上智大学 篠原 淳子
	トピックス 2	学会から見た研究者 ID ORCID がもたらす学会への影響と連携の可能性	化学会 林 和弘
	予告	SPARC Japan セミナー Open Access Week	事務局
第 11 号 2012 年 1 月発行	記事	商業出版社のオープン・アクセス戦略	Springer 石井 奈都
	記事	21 世紀における日本の学術誌出版(報告書) 日本のジャーナルを愛するすべての人へ (5) -日本の学術誌とは何か- 科学研究費補助金公開促進費学術定期刊行物	動物学会 永井 裕子
	トピックス 1	日本の学術誌(第 10 回) 日本植物生理学会	日本植物生理学会 渡辺 正夫 青山 卓史
	活動状況	「第 1 回 SPARC Japan セミナー2011」に参加して テーマ: OA 出版の現況と戦略	日本農芸化学会 日岡康恵 常磐大学 栗山 正光 千葉大学 谷 奈穂
	お知らせ	NII による新しいサービス JAIRO Cloud - NII 共用リポジトリ(仮称)の愛称決定-	事務局
第 12 号 2012 年 3 月発行	記事	SPARC Japan : その創設期の頃	一橋大学 大場 高志
	記事	図書館コンソーシアムの現在	早稲田大学 中元 誠
	トピックス 1	日本の学術誌(第 11 回) 日本動物学会	動物学会 永井 裕子
	活動状況	「今時の文献管理ツール」ワークショップに参加して	AFFRIT 林 賢紀
	予告	SPARC Japan 協力: 日本数学会と Project Euclid 共同ワークショップ	事務局